

その他経費（廃棄物処理費）
灰処理費の算定について

2023年2月6日
中国電力株式会社

1. 原価に織り込んだ灰処理費の考え方

- 今回の申請原価には、最新技術およびバイオマス混焼を採用した三隅発電所2号機の導入に加え、価格競争力のある安価な低品位炭の活用といった経営効率化の取り組みによる燃料費の低減効果を織り込んでおります。
- 一方、こうした取り組みに伴い、灰発生量が増加することから、原価算定期間中の灰処理費は、至近の実績よりも増加するものと想定しております。

◆灰処理費の推移

(億円)

	実績				想定	原価算定期間			
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
火力廃棄物処理費	89	91	83	84	101	115	108	102	109
灰処理費	56	61	55	55	70	86	80	73	80
排煙処理費	25	23	22	23	26	23	23	23	23
排水処理費	5	5	5	4	6	5	5	5	5
その他	4	2	2	1	0	2	1	1	1

【電源設備形成・運用の効率化】

- 最新技術およびバイオマス混焼を採用した三隅発電所2号機を導入し、非効率経年火力発電所を代替することで経済性・環境性に優れた電源構成を構築していきます。

〔石炭火力の電源構成変化〕

- ・三隅発電所2号機運転開始（2022年11月）+100万kW
- ・水島発電所2号機、下関発電所1号機廃止決定（2022年6月）

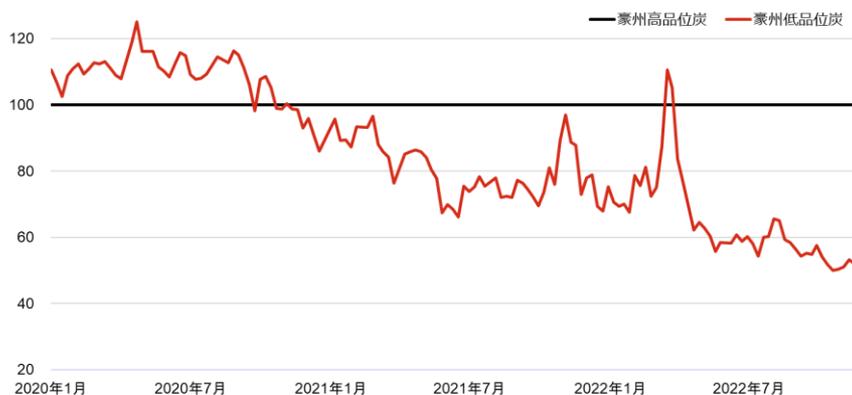
三隅発電所2号機運転開始に伴う燃料費低減メリット： ▲200億円/年

2. 低品位炭の導入拡大

- 石炭は近年、高品位炭に対する低品位炭の価格競争力が高まっております。
- 低品位炭の導入にあたっては、燃焼安定性や環境基準への適合性の確認を十分に行う必要があるため、安価な低品位炭の情報を調査する燃料調達部門と性状評価や試験等を行う発電部門が常に緊密に連携して取り組んでおります。

〔豪州における高品位炭価格を100として指数化した場合の、
低品位炭価格の推移〕

注：市況値を熱量等価へ補正・灰処理コスト込みで評価した試算



〔発電部門〕

1. 石炭性状評価
炭質評価システムによる机上評価

可

2. 新炭種燃焼試験
実機試験燃焼(3~4日程度連続)

可

3. 実運用開始
通常の運用炭として受入・燃焼

主な評価項目

- ボイラ・ミル：燃焼安定性、灰付着影響、負荷追従等
- 排ガス性状：SOx、NOx、ばいじん等
- 揚運炭設備：ハンドリング性、付着炭・異物有無等
- 灰処理設備：ホッパ詰り・塊の有無等
- 排水処理設備：排水(微量物質等)処理状況等

低品位炭導入拡大による燃料費低減メリット： ▲82億円/年